

## 執筆者一覧

小谷瑛輔（こたに・えいすけ）

富山大学人文学部准教授

著書『小説とは何か？——芥川龍之介を読む』（ひつじ書房、2017）

小林洋介（こばやし・ようすけ）

比治山大学現代文化学部講師

著書『〈狂気〉と〈無意識〉のモダニズム——戦間期文学の一断面』（笠間書院、2013）、論文「戦間期モダニズムとしての散文詩理論——雑誌『詩と詩論』とその周辺——」（『国語と国文学』94(5)、2017）ほか。

松本和也（まつもと・かつや）

神奈川大学外国語学部教授

著書『日中戦争開戦後の文学場——報告／芸術／戦場』（神奈川大学出版会、2018）、論文「第一回大東亜文学者大会の修辞学——大東亜共栄圏言説の亀裂」（『神奈川大学アジア・レビュー』5、2018）ほか。

斎藤理生（さいとう・まさお）

大阪大学大学院文学研究科准教授

著書『太宰治の小説の〈笑い〉』（双文社出版、2013）、論文「一九四七年前後の〈小説の面白さ〉——織田作之助と「虚構派」あるいは「新戯作派」」（『国語と国文学』95(4)、2018）ほか。